



インクルーシブ・マインドを育てよう!



小田原支援学校
人的交流研究部会

テーマ 「みんなが笑顔で安心して過ごせる小学校を目指して」

めざすこどもの姿:

「自分や友達の事を理解し、学びやすい環境を選んだり、考えたりできる子」

インクルーシブ教育を段階に分けてみると・・・

第1段階・・・「理想を考える・イメージすること」(「インクルって何?」「みんなが過ごしやすいてこうだよね!」)

第2段階・・・「形を作る」(支援級の子を名簿に入れる、ロッカーや下駄箱も作る 等)

第3段階・・・「マインドを育てる」(大人も子どもも「みんなで」を考える)

→現在ほとんどの小学校では第3段階目の「マインドを育てる」段階。

インクルーシブ教育推進に向けての一つの取り組みとして、校舎の各フロアや各教室に支援グッズを設置し、誰もが自己選択をして利用できるようにしていきたいと考えている。この取り組みによって、支援の必要な子が当たり前のように支援グッズを使う上での土壌づくりになると考えている。「あの子だけ何か変なの付けている」「あの子は授業中、ずっと動いている」等、ぼやけた認識の中で一緒に生活していくと、それが負の特別視した認識やいじめのきっかけにもなりかねない。「あの子は今の音が辛いからイヤーマフをつけているんだ」「視界に気になるものがあるから動いてしまうんだ」等、適切に理解することで一人一人の違いを認め合い、助け合いのできる関係性を築いていきたい。

小学校での6年間を通して「自分や友達が学びやすい環境を選んだり、考えたりできる子」を目指すために、各学年において「自他の認識」や「支援グッズを体験する事」等を通してインクルーシブについて考える機会を教師や児童に設けることでインクルーシブなマインドを育てるための土壌づくりや種まきをしていきたい。

インクルーシブ・マインドを育てる

ステップ①「自分を知る・相手を知る・手段を知る」

第1学年 学活「おたすけぐっずげーむらんどへようこそ」

第2学年 学活「これってべんりでしょ?メガネとイヤーマフの違い」

ステップ②「自分と相手の違いを知る・公平と平等について考える」

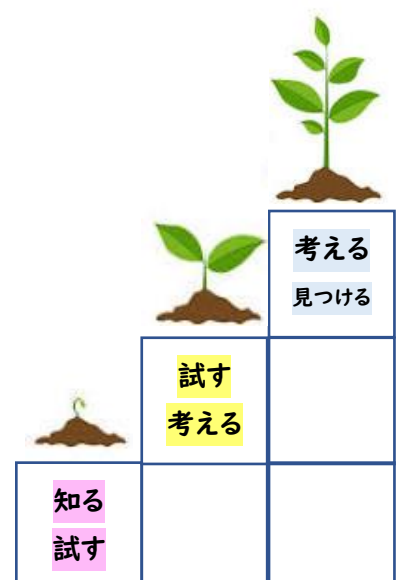
第3学年 学活「あなたなら何を使う?～支援グッズ体験 しよう～」

第4学年 総合「公平と平等について」

ステップ③「違いを認めて『過ごしやすい』を考える」

第5学年 学活「My 集中力 UP グッズを探そう!!」→1週間お試し

第6学年 学活「みんなが楽しめる公平な活動を考えよう」→縦割り班遊びを考える



(授業の概要)

ステップ①「自分を知る・相手を知る・手段を知る」

第1学年 学活「おたすけぐっずげーむらんどへようこそ」

イヤーマフ・パーテーション・バランスクッションの3つを用いたゲームを通して支援グッズに慣れ親しむ。また、本来どのように使われているかを紹介することで支援グッズの理解に繋げていく。最後には「もし、イヤーマフをつけている友達がいたらどうする?」という問いをすることで、対応の仕方を考える機会としたい。

第2学年 学活「これってべんりでしょ?メガネとイヤーマフの違い」

身近なメガネについて取り上げ、実際にぼやけて見える疑似体験を通して目の不自由な人にとって大切なものだと知る。次に、イヤーマフについて紹介して、様々な音を聞き比べ、人によって苦手な音が違うことを体験することで相互理解に繋げていきたい。

ステップ②「自分と相手の違いを知る・公平と平等について考える」

第3学年 学活「あなたなら何を使う?～支援グッズ体験 しよう～」

「ざわざわした」「みんなから注目される」「つまらない」「とても静かな」といったシチュエーションを体験して、自分だったらどの支援グッズを使って乗り切るのかを考えることで、自身への気づきや友達との違いに気づかせたい。

第4学年 総合「公平と平等について」

野球観戦場でのシチュエーションをロールプレイすることで「平等」と「公平」の違いについて学習する。日常的に「公平」なこと「平等」なことを考えることで身近に沢山あることに気づかせる。2つの言葉を抑えたあとに「小さい子が楽しくボウリングをするための公平になるための手立て」を考えることで、これからの友達との関りの中で気づかせていきたい。

ステップ③「違いを認めて『過ごしやすい』を考える」

第5学年 学活「My 集中力 UP グッズを探そう!!」→1週間お試し

授業中の困り感を出し合い、自分だったら普段どう乗り切っているかを共有することで互いの違いや気づきへと結び付けていきたい。様々な支援グッズセットを 1 週間お試しでクラスに置いて使うことで、自分への気づきや友達が「いつ」「どのような時に」困っているのか等に気づく機会としたい。

第6学年 学活「みんなが楽しめる公平な活動を考えよう」

「公平」と「えこひいき」の違いについてクイズ等を通して学習し、縦割り班あそびでおにごっこ系のあそびをする際に「走るのが苦手な子」「ルールが理解できない子」「勝ち負けにこだわる子」等がいる事を想定してみんなが「公平」に楽しめる遊びや対応について考える。最高学年として学校全体をリードしていく上で「みんなが楽しく(安心して)過ごせる事の視点」をもたせたい。